



遠近新聞
第廿一號

定價一匁

西垣文庫
文庫10
7265
19



持 文庫10
7265
19



遠近新聞第二十一号

慶應四年五月二十日

五月十六日伊豆守殿に渡り書付写

過日以來旗本末々心得違之者 朝廷寛仁の趣意
不奉持戴主人口口恭順の意に背き謹慎中の身を以
脱走に及び上野山内其外所々屯集官兵を暗殺し
民財を掠奪益兇暴を逞し官軍に抗衡は實に不可赦
の国賊也故に不_レ為_レ得_レ止_レ今般誅戮_ニ 仰出_レ此般
為_レ心得_ニお達_ニ旨

大総督府由沙汰小事

遠近新聞

第二十一号

百五



5730

五月十五日

右の通 大総督府より奉 仰出の間弥以心得違無
之振致旨由旗本由家人中を不渡振早々の奉お觸り
五月十五日

○五月十六日伊豆守殿由渡由違之写

別紙の通

大総督府より奉 仰出の間得其意屯集の輩有之由
り早々引拂由振取斗由事

徳川御名

其方旗本撤兵隊別手組其外屯集の輩先當分の内解
兵家歸奉 仰舟由余其敵の中違由事

五月十六日

○五月十四日由違の写

兼由軍令も奉 仰出の間狼狽に民家を放火一家賊
を掠る等乱妨狼藉無之振精々のお心得旨猶改由奉
仰出由事

五月十四日

大総督

参謀

旗^ノ下^ニ末^ニ々^ニ脱^ス走^ル之^ノ輩^ハ上^ニ野^ノ山^ノ内^ニ其^ノ外^ニ所^々々^ニ屯^リ集^ル屢^々官^ノ軍^ハ
 の^ノ兵^士を^テ暗^ニ殺^ス一^ニ無^シ辜^ノの^ノ民^賊を^テ掠^リ奪^ス一^ニ益^シ暴^ラ虐^クを^テ過^ス
 官^ノ軍^ハ又^テ抗^シ衛^スは^テ実^ニ大^ニ罪^ノ不^レ可^ク赦^スの^ノ国^賊也^ト最^モ朝^廷寬^ク
 仁^ニの^ノ道^ニも^テ絶^シ果^シ断^シ然^ニ誅^ス伐^スを^テ仰^リ出^スゆ^ニは^テ舟^ヲ而^テ勇^ヲ鬪^シ激^ク
 戰^シ奮^テて^テ国^賊を^テ鏖^シ殺^ス一^ニ億^ニ兆^ノ蒼^ニ生^ノ之^ノ塗^ニ炭^ヲを^テ救^ヒ速^ニ平^ム
 定^メの^ノ功^ヲを^テ奏^シ一^ニの^ノ奉^シ安^ム宸^襟旨^ヲ沙^汰之^ノ事^ト

五月

追^ヒ勿^レ出^テ達^ス一^ニ之^ノ趣^ニは^テ舟^ヲ弥^明十五^日朝^ニ七^字迄^テ大^ニ下^ニ馬^ヲへ
 の^ノお^ノ揃^事

五月十四日

筑^州 薩^州 彦^根 礮^礮隊^{所^謂神^手隊} 藝^州 大^村
 阿^州 伊^州 長^州 備^前 因^州 佐^土原

○十四日出張よお成ゆ出人数

大^川橋 肥^前百人
 千^住 因^列百人
 沼^田 肥^後五十人
 川^口 大^久保^與一^郎九^十人
 戸^田 備^前五十人
 古^河 肥^前

忍 藝列五十人
川越 筑前五十人

王子辺 筑前百人
藝列百人

湯島 因列百人

肥後百人

藝列二百人
四斤半二挺

黑門前

詳砲 二挺

大村九十人

長洲二百人

肥前百人

佐土原百人

四斤半砲二挺 筑後

同 同 筑前

六斤砲 同 肥前

米利堅砲二挺 備前

フランス砲同 砲礮隊

本郷辺

富山屋鋪

水戸中邸

遠近所司

四斤半砲
白砲
二挺 佐土原
一挺 備前
二挺 佐土原
伊別

一橋門ヨリ
水道橋辺
阿別

水道橋ヨリ
水戸邸辺
尾別百人

本御聖堂
近辺
新發田百人

森川宿ヨリ
追分辺
備前百人

方今賊勢暴動民心を悩^{なや}しひよ付今日より諸見舟門
々々切^{きり}嚴重^{じゆうじゆう}人別^{ひとわか}にお改^か外事

五月十四日
大總督

下参謀

諸見附門々警衛の美^{うつく}し其兵隊を四分^{よんぶん}に分ち其一^{ひと}の
門前の町々間を巡邏^{じゆんら}斥候^{せきこう}し其一^{ひと}の門内^{かどうち}に整列^{せいれつ}し其

跡二分の庭上は休息さる

右心得違無之指嚴重に警衛を致旨参謀より
内沙汰之車

五月十四日

大総督

下参謀

○

十五日夕七ツ時頃より紀州上屋鋪内の士二百人斗
其外近辺の内旗本内家人充集り青山熊野権現近辺
の寺に入りその院への仕度ども集り食物等
充運び居り夕夜五ツ時頃何所にお分らざれどもそ

を去りし

○

十五日夕襦高袴割羽織を着せる士一人小川町榊原
上屋鋪の門へ来り何の問ひも去り東を
向き二三間も行きたる頃一ツ橋通りより官軍方未
りたれば右の士立戻り何の應接の事も間もなく
右の士後ろへ逃るとする所を官軍方小銃を發し打
ちとり首を切り捨て刀腰差の身等分どりしと歸へ
たり右士の何者あるやま定り怪しむ者あり
しるらん

